

江戸時代から続く、世界最高峰の人形劇「文楽」。

◆去年、人間国宝に認定された人形遣い・吉田玉男が登場。

文楽の始まりは、今からおよそ400年前の江戸時代。

三味線の伴奏に合わせ、太夫と呼ばれる語り手が物語などを語る「浄瑠璃」と人形劇を合わせた「人形浄瑠璃」＝「文楽」が誕生。その内容には、幾つかのジャンルがあり、「心中もの」をはじめ、その時代のホットな事件を題材にしたものを「世話もの」という。

今も昔も、スキャンダルはみんな大好き！

当時の民衆も、実際の事件を題材にした「世話物」に飛びつき、文楽は江戸時代のワイドショーと言える存在だったのだ。



◆人間よりも人間らしいといわれる文楽人形を

どう操っているのか？実演!!

登場人物のセリフやナレーションを語る太夫と、伴奏だけでなく、効果音などの役割も果たす三味線。そして、人形に命を吹き込む人形遣い。この三者を合わせて「三業」と呼ぶ。

今回は、人間国宝・吉田玉男が、息を合わせながら人形を操る人形遣いの神業を披露！ヒロミと筒井も実際に体験してみるが、その高度な技に感心するばかり。

さらに文楽発祥の地・大阪にある国立文楽劇場に潜入。

一人で全ての登場人物のセリフを演じ分ける太夫や、たった一音で登場人物の感情や場面の状況などを表現する三味線の技。舞台を支える小道具・衣装・床山などの職人技など、文楽の魅力を紹介。これまで文楽を観たことがないというヒロミも「ぜひ観に行きたい」と感動する。

コメント ヒロミ×筒井

ヒロミ「何気ない文楽人形の足の動き。全く周りが見えない中でやるから、あれが一番難しい気がする。あの表現は難しい。神業！」

筒井「是非『ワンピース』を文楽でやって頂きたいですね。」

ヒロミ「『ワンピース』いいよね。実写版よりいいかもしれないね。」